

競技に関する注意事項

1 コロナウィルス感染拡大防止対策

- (1) 今大会は無観客とし、競技場へ入場できるのは、各団体の陸上競技部代表、競技役員、選手、マネージャーのみとする。競技場またはウォーミングアップ場へ入場する場合は、確認された体調管理チェックシート（検印されているシート）の提示が必要となる。必ずマスクを着用し、三密を避ける。
- (2) ①競技場へ入場する全ての人は、本大会1週間前から今大会用の「大会前・確認用 体調管理チェックシート」（以後、チェックシート）を記入する。また、このチェックシートは大会後2週間、各自で保管するものとする。
②競技場に着いたら最初に必ず選手・代表・マネージャーは1階正面玄関付近で必ずチェックシートの確認（検印）を受ける。これを受けなければ、本競技場、ウォームアップ場への入場や招集を行うことができない。出場選手のチェックシートの確認は競技開始2時間前より行う。
③チェックシートは招集完了後に競技場へ入場する際、ゲートで提示し確認を受けて入場をする。
④各団体の代表も、受付時にチェックシートの確認が必要となる。その時、検印を押印するのでメインスタンドへの入退場に使用する。（審判員は審判員証を提示。）各団体の代表、マネージャーはメインスタンド2階正面出入口から入退場する。
⑤大会当日に出場できない選手がいる場合は、競技者係（招集場）に欠場届を提出するか口頭で申し出る。
⑥大会後の2週間についても「大会後・自己管理用 体調管理チェックシート」を記録する。
- (3)原則、出場する種目の競技開始2時間前から競技場への来場を認める。
- (4)正面スタンドについては、検印がされているチェックシートを所持した人のみが入場できる。特に席を指定しないが、密を避けて座る。
- (5)声を出しての応援は個人、集団問わず禁止する。
- (6)ウォーミングアップや自身の競技の最中以外は、極力マスクを着用し、三密を避ける行動をする。
- (7)更衣室を使用する際は1階正面玄関入り口から入り、利用手続きをする。ただし、シャワーの使用は不可とする。使用状況によっては、人数を調整する。
- (8)必ず手洗いなどを行い、消毒を実施し、新型コロナウイルスの感染予防に努める。
- (9)競技終了後は速やかに帰宅する。

2 競技会全般に関して

1. 本大会は2022年度日本陸上競技連盟競技規則によって行う。
本大会のスタート動作における競技規則は、国内ルールを適用する。
2. 各団体代表者(学校については引率教員)は、競技の招集開始時刻までに受付を済ませておく（受付がない場合、競技者は競技に出場できない）。
3. 招集所、招集時間について
 - (1) 招集は、1階正面玄関ウッドデッキで行う。
 - (2) 招集時間は、タイムテーブルに記載されている時間とする。
 - (3) 1階正面玄関ウッドデッキを控え場所として使用しない。（緊急時には、避難場所として使用する。）
4. ウォーミングアップについて
 - (1) 本競技場
本競技場内でのウォーミングアップは禁止とする。
ただし、競技会の準備が早く完了した場合は、第1種目開始15分前まで開放することもある。
その際はアナウンスにより連絡をする。
 - (2) ウォーミングアップ場（多目的広場）
 - ①終了時刻は最終種目招集開始時刻までとする。
 - ②跳躍練習、投擲練習、スパイクを利用した練習は実施できない。
 - ③他人の怪我につながる可能性のある行為はしない。
 - ④出場種目の2時間前から最終コールまで使用可とする。
 - ⑤本競技場で入場受付を済ませたチェックシートを所持者のみ入場可能とする。

5. 施設設備の使用について

今大会では競技終了後の清掃当番がないので、各自で出したごみは必ず持ち帰ること。近隣のゴミ箱等に捨てることはしない。

6. 写真及びビデオ撮影について

肖像権の法に触れる行為に関して、個人で記録したものを無断でネット上にアップロードしない。

7. Live 配信について

今大会は、YouTube によるライブ配信を行う。

3 競技に関して

1. アスリートビブス（ナンバーカード）について

- (1) ユニフォームの胸、背に確実につける。ただし跳躍競技は、胸または背につけるだけでもよい。
- (2) トラック競技は、招集時にレーンナンバーによる「腰ナンバーカード」を貸与する。ランニングパンツの右横やや後方に、明確に数字が読めるようにつける。
- (3) 腰ナンバーカードは、フィニッシュ後直ちに返却場所（係員）に返却する。

2. 競技について

- (1) トラック競技の走路順・フィールド競技順は、プログラム記載順とする。
- (2) 競技者の変更はいっさい認めない。
- (3) 使用器具は、原則として競技場備えつけのものを使用する。ただし、棒高跳のポール及び投てき器具は検定を受けて使用することができる。
- (4) 全天候走路なので、トラック・フィールド共スパイクのピンの長さは 9mm 以下とする。ただし、走高跳・やり投は 12mm 以下とする。いずれの場合も本数は 11 本以内とする。（競技規則第 143 条 2・3・4・5・6 参照）
- (5) WA 規則第 143 条 (TR 5:シューズ) のルールを適用する。規格外のシューズを使用して競技に出場した場合は、失格として取り扱う。
本大会は、標記の規則を適用して実施する。招集所にて、靴の確認を行なう場合がある。
- (6) 日本陸連発出の文章「陸連 21 発第 5 - 2 号」に基づき、本大会はフィールド競技用シューズの TR 5. 5 を適用せず実施する。記録は国内の公認記録として認められる。フィールド種目については WA への申告を行わず、国際大会への参加資格とはならない。
- (7) 400m までのトラック競技では、フィニッシュした後も他の競技者の安全確保のために、自分に割り当てられたレーン(曲走路)で減速し止まる。
- (8) 3000m については気象条件により競技中の給水を行うこともある。
- (9) フィールド競技の試技数は 3 回とする。上位 8 名による試技、順位決定戦は行わない。

【選手の動線について】

1. 競技場内にはそれぞれ指定されたゲート（招集後入場口）から入退場すること。
2. 入場の際は体調管理チェックシートを提示すること。
3. 指定されていないグラウンドレベルのゲートは封鎖する。また、メインスタンド下は通行しない。
4. 競技場内を通過する際には、競技運営に支障が無いように十分配慮すること。
5. 招集完了はタイムテーブル記載のとおり。場所は正面玄関ウッドデッキに設置する。その際、競技役員に体調管理チェックシートに検印をもらうこと。体調管理チェックシートを提出できない場合は出場を認めない。
6. トラック種目はゴール付近に設置した腰ナンバーカード回収所で腰ナンバーカードを返却し、荷物置き場に戻る。その際遠回りでも、グラウンドを一周する。
7. 競技終了後速やかに競技場外へ退出すること。
8. 記録の掲示は行わないので、記録速報ページで記録を確認すること。上位者のアナウンスによる発表は行う。
9. 荷物について
特に置き場所は指定しない。ただし、競技運営上支障のない場所で、三密にならないようにすること。